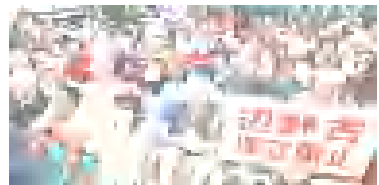


## 鎮魂 うちなーんちゅの心、闘う民と共にあった人 沖縄県 翁長雄志知事という政治家を私たちは忘れない

七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。優しく響く三線は、爆撃の轟きに消えた。青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は、戦艦で埋め尽くされた。火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火薬の匂い。着弾に揺れる大地。血に染まった海。魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。阿鼻叫喚の壮絶な戦いの記憶。



みんな、生きていたのだ。私と何も変わらない、懸命に生きる命

だった。彼らの人生を、それぞれの未来を。疑うことなく思い描いていたんだ。家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。仕事があった。生きがいがあった。日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた、私と同じ、人間だった。それなのに。壊されて、奪われ。生きた時代が違う。ただ、それだけで。無辜の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。私は手を強く握り、誓う。奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、こんなにもたくさんの命が犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。もう二度と過去を未来にしないこと。全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を超越え、あらゆる利害を超えて、平和である世界を目指すこと。生きる事、命を大切にできること、誰からも侵されない世界うい創ること。平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。この島の美しさを。戦争の無意味さを。本当の平和を。頭じゃなくて、その心で。戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。平和とは、当たり前前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きることだということ。

私は今を生きている。みんなと一緒に。そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。誇り高き、みんなの島。そして、この島に生きる、すべての命。私と共に今を生きて、私の友。私の家族。これからも共に生きてゆこう。この青に囲まれた美しい故郷から。真の平和を発進しよう。一人一人が立ち上がって、みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。過去と現在、未来の共鳴。鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。命よ響け。生きゆく未来に。私は今を、生きていく。

(鎮魂を捧ぐため沖縄慰霊の日追悼式、相良倫子さんによる平和の詩「生きる」一部引用する)